



福島県立梁川高等学校

平成 29 年 10 月 19 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 12

■ コスモスの 花あそびをる 虚空かな (高浜虚子)

自宅の周辺ではコスモスが盛んに咲いています。通勤経路の道沿いにも一面のコスモス畑があり、薄紅色の可憐な花が朝日を浴びて輝いている光景を目にします。この花を見ると往年のアイドル山口百恵の名曲「秋桜」のメロディーが浮かんできます。「明日嫁ぐ私」と母親との別れを主題とした曲は、さだまさしの作詞・作曲でした。離ればなれになる切なさの中にも、共に過ごした時間と信頼が二人を強く結びつけていることを感じさせる味わい深い歌です。遠い昔になりますが、私が初めて買ったレコードは山口百恵のデビュー曲でした。また、保原町商工会主催の「山口百恵コンサート」にも出かけています。当日は梁川中学校の野球部との練習試合があり、終了後、一目散に自転車を漕いでコンサート会場に向かいました。あの時の自分の姿が懐かしく思い出されます。コスモスは幼い頃の淡い記憶につながっている花でもあります。



■ 走ることから何を学ぶのか ～校内マラソン大会を前にして～

10月22日(日)は恒例の校内マラソン大会です。今年で50回目を迎えます。記念すべき第1回大会が行われたのは昭和43年度のことでした。以来、雨天のため中止となった第8回と第37回を除いて、今日まで脈々と引き継がれてきました。昔は学校のグラウンドを出発して、男子は富野小学校を折り返して戻ってくる約8キロのコース、女子は塩野川橋を渡り上町経由で戻ってくる約3キロのコースでした。平成21年度の第42回大会からは、創立90周年を記念して伊達市主催の「三浦弥平杯ロードレース大会」に参加する形で行われ、男子は5キロ、女子は3キロの距離となり現在に至っています。歴代の優勝者を学年別に見ると、男女とも2年生が圧倒的に多く、3年連続で優勝した生徒は男女とも3名ずついます。当初、新聞委員会発行の「梁川高校新聞」にはマラソン大会を走った生徒の感想が掲載されており、先輩方の大会にかける想いを知ることができます。第10回大会(昭和52年度)を走った3年生のW君は次のように述べています。「私は、マラソン大会は勝敗だけのものではなく、自分の出せる力を出し、無心で走ること全力を尽くす、そこに喜びが生まれると思う。走っている時は本当につらい。しかし、完走してゴールに入った瞬間勝敗など気にせず自分自身の姿に満足して爽快な心持ちになり、おれは生きているという実感がわいてきて若さの原点を感じる。だから私は走ることが大好きである。」この文章からは完走したW君の達成感が伝わってきますが、勝敗にかかわらず全力を尽くすことに喜びを感じている姿に心を打たれます。作家の村上春樹は走ることを日課とし数多くのマラソン大会にも出場していることで知られ、「走ることについて語る時に僕の語ること」という著書もあります。その中で「小説を書くこと」と「マラソンを走ること」の近似性について触れています。特に小説家にとって必要な集中力と持続力は、トレーニングによって後天的に獲得できる資質であり、ジョギングによって筋力を強化しランナーとしての体を作り上げることと同じ種類の作業であるとした上で、次のように述べています。「大事なのは時間と競争をすることではない。どれくらいの充足感を持って42キロを走り終えられるか、どれくらい自分自身を楽しむことができるか、おそらくそれが、これから先より大きな意味をもってくることになるだろう。」W君の感想と村上氏の言葉の符合に驚くばかりです。生徒諸君には、視点を変えて「走ることから何を学ぶのか」という根源的な問いを自分自身に発しながら、自分のペースで完走を目指して欲しいと思います。



3 学年保護者の皆様へ

10月17日(火)、3学年保護者会が行われました。今後の学校生活の過ごし方について、学年と生徒指導部から説明を行いました。生徒諸君には卒業が決まるまで学業に励むように、保護者の皆様にはお子さんの生活を見守りご指導くださるよう話をしました。また、自動車学校入校についても説明を行い、学業優先と生徒の生命を守る観点から一定の条件のもとで許可していることと、ルールに従い手続きを踏んで入校することについてご理解いただきました。3年生にとって高校生活もあとわずかりになりました。学習にしっかりと取り組むとともに、社会人となる心の準備をして欲しいと思います。

■ 県北高校ソフトテニス学年別大会が行われました

10月14日、福島市営庭球場において、県北高校ソフトテニス学年別大会が行われました。本校からは男女ペアで6組が予選リーグに出場し、熱戦を展開しました。決勝トーナメント進出はなりませんでした。日頃の練習の成果を発揮してきました。今後はさらに練習に励み、技術を磨き、心を鍛えて欲しいと思います。来年の飛躍に期待します。



■ ALの視点から授業改善に取り組んでいます

今年度より「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニング（AL）の視点から授業改善に取り組んでいます。1学期は校内研修会を行い、ALが求められている背景やその手法について学び、各先生方が実践を始めました。2学期は私が先生方の授業を50分間参観し、感想や改善点をフィードバックしています。10月5日、遠藤透教諭の現代社会では、「伊達市議会だより」を素材に地域の問題をグループでディスカッションし意見をまとめる授業が行われ、添川隆博教諭の保健では、「性感性症～エイズとその予防～」について、導入時に実験を行ったり、ペアで話し合ったりするなど体験的で対話的な授業が展開されました。生徒達が級友との対話を通して主体的に学ぶ姿が印象的でした。



■ PTA 視察研修が行われました

10月11日、PTA視察研修が行われました。最初に訪問した県環境センター交流棟「コミュニティ福島」では、東日本大震災と原子力災害の記録と記憶を振り返るとともに、復旧・復興に向かう本県の状況を学習しました。特に驚いたのは、直径12.8mの球体の内側すべてがスクリーンになっていて、360°全方位の映像を体験できる「環境創造シアター」です。我が国に二台しかないシアターの映像と音を通じて、放射線の基本的な知識と福島の美しい自然を体験しました。次に訪問した日本調理技術専門学校では、学校の概要をお聞きするとともに調理実習室を見学しました。昼食は校内のレストランで学生が調理した日本料理を頂きましたが、その美味しさに一同感動しました。また「料理の鉄人」で有名だった陳建一さんの講義を垣間見ることができ、陳さんの料理した海老チリもご馳走になりました。最後に訪問した「ふくしま逢瀬ワイナリー」では、果樹栽培の6次産業化を支援する取り組みについて学びました。震災の記憶の風化が叫ばれる中、大変有意義な視察研修となりました。



「コミュニティ福島」の正面玄関前にて

掲示板

10月22日（日）は校内マラソン大会並びに芋煮会です。その関係で10月23日（月）は代休となります。

■ 創立百周年記念事業実行委員会のご案内

下記のとおり創立百周年記念事業実行委員会設立総会が行われます。すでに関係の皆様にはご案内を差し上げておりますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願いいたします。

日時：10月26日（木）18時～

場所：梁川中央交流館大研修室

内容：①設立総会 ②各小委員会

